



# はじめの一步

教室ブログ更新中(<http://onestep-mtj.com/>)

vol.120

## 小学生あるある～聞く人がいないと始まらない音読～

小学生の宿題の定番といえば教科書の音読ですね。宿題の範囲が短ければいいのですが、長いと読む前から何度もページをめくって、それだけでうんざりしてしまうもの…。早く終わらせたい一心で、行を読み飛ばすこともしばしば。それに気づいて指摘すると「あー、もう!!」なんてイライラして、さらに読み間違いが増える、増える…。早口で読み進め、口が回らず、それにもイライラ。落ち着いて読めばいいのに、気持ち焦ることで余計な時間がかかっちゃうんです。教室では授業中に音読する時間を設けています。国語の授業で本文の音読をするのはもちろんですが、算数の授業でも問題文を音読してもらいます。一人でやって解けなかった問題も、問題文を声に出して読んでみるだけで「あ、そういうことか!」となることもあるんです。不思議ですね。音読には、文章を理解することや表現力を高めること以外にも、語彙力がアップしたり話し方が上達したりするなどさまざまな効果があります。



## 小学生あるある～問題の書きとり間違い～

小学生の宿題で音読同様定番なのが、計算ドリルと漢字ドリル。ここ数年で登場したドリル専用のノートがすごいですね～。計算ドリルの問題番号と問題がすでに書かれているんです。初めて見たときは“過保護すぎやしないか!?”と思いました。でも、計算する以前に問題を書き取り間違いがあるんですよね。また、問題を飛ばしていることに最後の最後で気づいたりすることも…(笑)一番後ろに付け足せばいいと思うけど、それは許せずイライラしながら消しゴムで消してやり直す…。そんなストレスをなくすため必要なアイテムなのでしょう。中学生の数学の授業でもあるあるです。「先生…何度解き直しても答えが合わないんだけど…。」と訴えてくるので、ノートに書かれた途中式を見せてもらいます。正しく計算できていることを確認。そういうときは大概問題の写し間違いが原因です。テキストの問題には書かれていた『<sup>マイナス</sup>』が、ノートの問題には書かれていない。解き方が合っているので丸をつけてあげますが「あー、もう!!」ってなります。教室では解くスピードを重視するのではなく、正確さを重視するように指導しています。漢字練習でも、途中まで正しく書かれていた漢字が一画少なくなっていることがあります。子どもの集中力を配慮すると、量をたくさん書かせるよりも、一回を丁寧に書くことを優先させています。一人一人に適した練習量を考えています。

例えば、達を練習していた子で実際にあった書き間違い。小3で幸を覚えるときに横棒の数を意識させたのに、小4で出てきた達の“しんによる”の中身は微妙に違う。難しいですね。



## ごあいさつ

こんにちは! ONE STEPは個別指導の目標達成塾です。

未来を作る子どもたちが、自分自身の目標を持って前に進む姿を、保護者様と一緒に見守り、時に悩み、時に笑い、共に喜ぶ。心を寄せて子どもたちの成長を導いていくことが私たちの務めだと思っています。

教室を開校して14年が経ちおかげさまで、兄弟姉妹でお通いいただき、ご家族とも長いお付き合いをさせていただけるようになりました。これまでのたくさんのお会いに感謝し、お礼の気持ちをこの地域に還元したいと、教育情報誌をお配りしております。小さい塾なので、大きなことはできませんが、小さなことこそ大切にしている地域に根差した個別指導型の学習塾です。